

研究員 の眼

再び、売られる外国REITファンド ～2019年2月の投信動向～

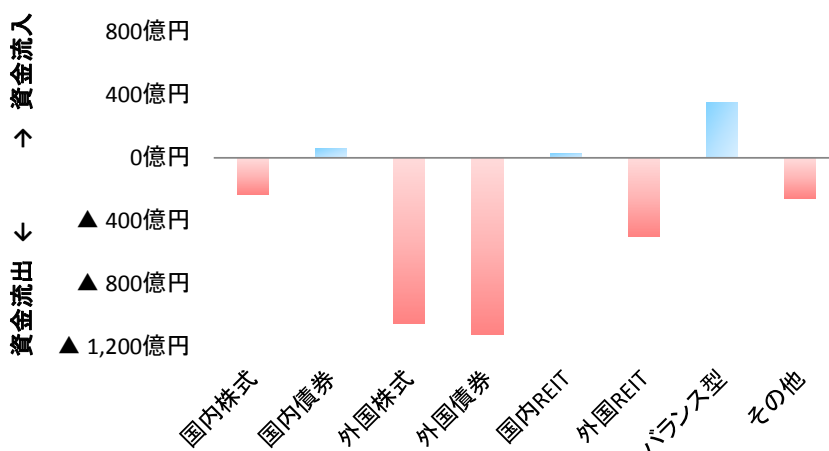
金融研究部 准主任研究員 前山 裕亮
(03)3512-1785 ymaeyama@nli-research.co.jp

多くの資産クラスで資金流出

2019年2月の日本籍追加型株式投信（ETFを除く）の推計資金流出入をみると、多くの資産クラスで資金流出があった【図表1】。特に外国株式と外国債券の資金流出が1,000億円を超え、投信全体でみると3,000億円に迫る資金流出があった。国内債券、国内REIT、バランス型には資金流入があったが、国内債券と国内REITは流入金額が100億円以下と小規模であった。また、バランス型には毎月分配型（【図表2】青太字）を中心に300億円を超える資金流入があったが、1月の600億円から大きく鈍化した。

外国株式から1,000億円を超える資金流出があったのは、2012年10月以来のことである。一部の外国株式ファンド（【図表2】赤太字）には資金流入があったが、その一方でAI関連ファンドを中心にハイテク系のテーマ株ファンドから900億円以上の資金流出があった。また、新興国株式ファンドからも300億円を超える資金流出があり、外国株式全体で流出金額は1,000億円を超えた。また、外国債券は、引き続き毎月分配型を中心に1,100億円の資金流出があった。

【図表1】2019年2月の日本籍追加型株式投信の推計資金流出入



(資料)Morningstar Direct より作成。各資産クラスはイボットソン分類を用いてファンドを分類。

【図表2】2019年2月の推計純流入ランキング

	ファンド名	運用会社	2月の推計純流入	純資産 2月末時点
1位	国際 アジア・リート・ファンド(通貨選択型)インド・ルピーコース(毎月)	三菱UFJ国際投信	215 億円	1,133 億円
2位	中国人民元ソブリンオープン	岡三アセットマネジメント	188 億円	353 億円
3位	東京海上・円資産バランスファンド(毎月決算型)	東京海上アセットマネジメント	168 億円	5,218 億円
4位	先進国ハイクオリティ成長株式ファンド(為替ヘッジなし)	アセットマネジメントOne	152 億円	425 億円
5位	ビクテ・グローバル・インカム株式ファンド(毎月分配型)	ビクテ投信投資顧問	116 億円	6,095 億円
6位	グローバル全生物ゲノム株式ファンド(1年決算型)	日興アセットマネジメント	106 億円	248 億円
7位	次世代通信関連 世界株式戦略ファンド	三井住友トラスト・アセットマネジメント	106 億円	2,568 億円
8位	ビクテ・バイオ医薬品ファンド(毎月決算型)為替ヘッジなしコース	ビクテ投信投資顧問	86 億円	628 億円
9位	東京海上・円資産バランスファンド(年1回決算型)	東京海上アセットマネジメント	84 億円	1,336 億円
10位	国際 アジア・リート・ファンド(通貨選択型)為替ヘッジなしコース(毎月)	三菱UFJ国際投信	81 億円	173 億円

(資料)Morningstar Direct より作成。ETF、SMA 専用、DC 専用ファンドは除く。

国内株式は様子見の投資家が多かった

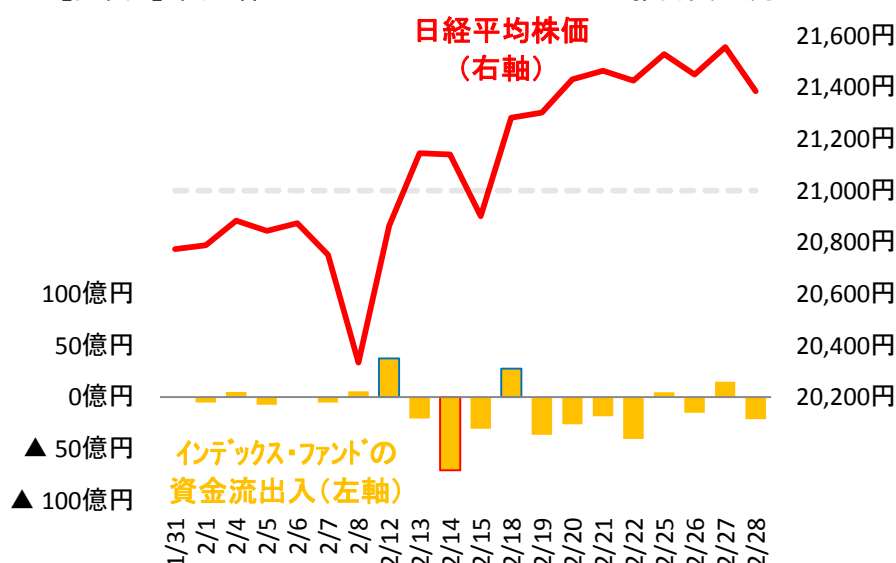
国内株式は、流出金額自体は230億円と小額であったが、資金流入から資金流出に転じた。インデックス・ファンドが1月160億円の資金流入から2月200億円程度の資金流出に転じた影響が大きかった。また、中小型株ファンドも資金流入が鈍化した。

日次のインデックス・ファンドの資金動向をみると、従前どおり逆張り投資の傾向がみられたが、動く資金は小額であった【図表3】。2月上旬は株価の方向感の乏しかったこともあり、日々の資金流入が10億円以内に納まっており、大きな資金の動きがなかった。中旬以降は大きく下落した翌営業日の12日と18日にまとまった資金流入があったが、それでも両日とも50億円に届かなかった。また資金流出も日経平均株価が21,000円台を回復した翌営業日の14日が最大であったが流出金額は70億円程度であった。下旬も日経平均株価が一時21,500円に乗せるなど株価は堅調であったが、資金流出傾向はあったものの小規模であった。2月はインデックス・ファンドの動向をみる限り、株価は上昇したが、売りも買いもせずに様子見をする投資家が多かったことが示唆される。

外国REITも再び資金流出に

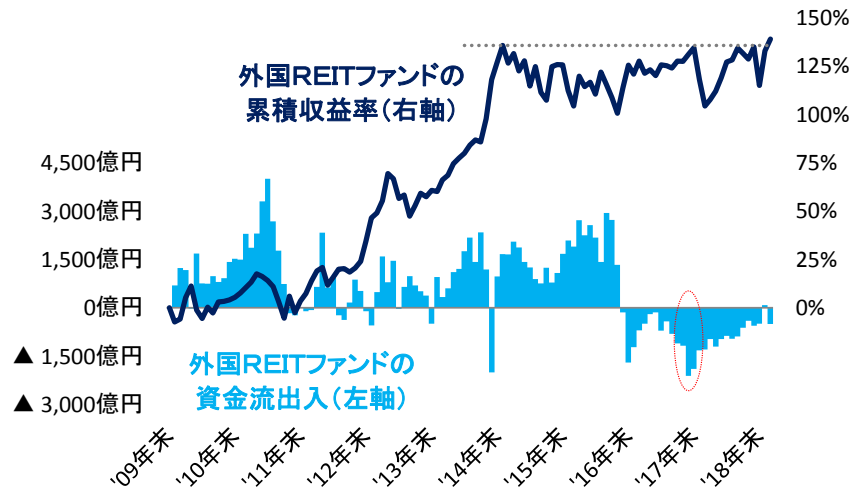
1月に約2年ぶりに資金流入に転じた外国REITであったが、2月は再び500億円に迫る資金流出があった。

【図表3】国内株式インデックス・ファンドの日次推計資金流出入



(資料)Morningstar Direct より作成。ETF、SMA 専用、DC 専用ファンドは除く。

【図表4】 外国REITファンドの資金流入と累積平均収益率



(資料)Morningstar Direct より作成。収益率は月次で月初純資産総額加重平均を算出し2010年から累積した。

外国REITでは、2月に純資産残高が大きい毎月分配型のファンドからの大規模な資金流出が相次いだ。それらのファンドからの資金流出は1月に鈍化していたため、売却が一巡したと思われたが再びの大規模な資金流出となった。

再び資金流出に転じた背景には、外国REITファンドのパフォーマンスが関係していると思われる。2010年以降の外国REITファンドの累積平均収益率をみると、2015年以降、パフォーマンスが伸び悩んだことが分かる(【図表4】線グラフ)。それが足元の外国REITの反発によって、2015年初のピークの水準まで回復した(点線)。そのため、2015年以前に外国REITファンドを購入し塩漬けにしていた投資家にとっては、2月は絶好の売却機会となった可能性がある。足元と同様に累積平均収益率が2015年初の水準まで回復した2017年11月、12月が他の月と比べて資金流出が膨らんでいたことからそのことがうかがえる(赤点線)。

中国本土株ファンドが好調

2月は、中国本土株ファンドが総じて高パフォーマンスであった(【図表5】赤太字)。中国本土株ファンドは、過去1年の収益率はマイナスであったことから分かるように、低迷していた。それが2月は、それまで重しになっていた米中貿易協議の進展に期待が膨らみ、さらにMSCIEマージング・マーケット・インデックスの見直しに伴う資金流入にも期待が膨らんだため、中国本土株が大きく上昇した。

【図表5】 2019年2月の高パフォーマンス・ランキング

ファンド名	運用会社	2月の収益率	過去1年収益率	純資産 2月末時点
1位 深セン・イノベーション株式ファンド(1年決算型)	日興アセットマネジメント	21.7%	-13.8%	534 億円
2位 日興AM中国A株ファンド2	日興アセットマネジメント	16.3%	-13.4%	22 億円
3位 日興AM中国A株ファンド	日興アセットマネジメント	16.3%	-13.4%	23 億円
4位 カレラ 米国小型株式アクティブファンド	カレラアセットマネジメント	15.4%	15.7%	11 億円
5位 USバイオ・ベンチャー(限定追加型)	ベイビュー・アセット・マネジメント	14.5%	-6.6%	74 億円
6位 UBS中国A株ファンド(年1回決算型)	UBSアセット・マネジメント	14.2%	-8.9%	76 億円
7位 サイバーセキュリティ株式オープン(為替ヘッジなし)	三菱UFJ国際投信	13.1%	26.3%	680 億円
8位 日興フォルティス 中国A株ファンド	BNPパリバ・アセットマネジメント	12.7%	-11.4%	27 億円
9位 中華圏株式ファンド(毎月分配型)	日興アセットマネジメント	12.5%	-11.9%	578 億円
10位 三井住友・中国A株・香港株オープン	三井住友アセットマネジメント	12.5%	-11.4%	17 億円

(資料)Morningstar Direct より作成。2019年2月末残高10億円以上のETF、ブル・ベア型以外のファンドでランキング。

(ご注意) 当資料のデータは信頼ある情報源から入手、加工したものです。その正確性と完全性を保証するものではありません。当資料の内容について、将来見解を変更することもあります。当資料は情報提供が目的であり、投資信託の勧誘するものではありません。